

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 24 年 9 月 20 日 (2012.9.20)

【公表番号】特表 2009-538437 (P2009-538437A)  
 【公表日】平成 21 年 11 月 5 日 (2009.11.5)  
 【年通号数】公開・登録公報 2009-044  
 【出願番号】特願 2008-552884 (P2008-552884)  
 【国際特許分類】

G 1 0 L 13/02 (2006.01)

G 1 0 L 13/00 (2006.01)

【 F I 】

G 1 0 L 13/02 1 1 0 C

G 1 0 L 13/00 1 0 0 R

G 1 0 L 13/00 1 0 0 S

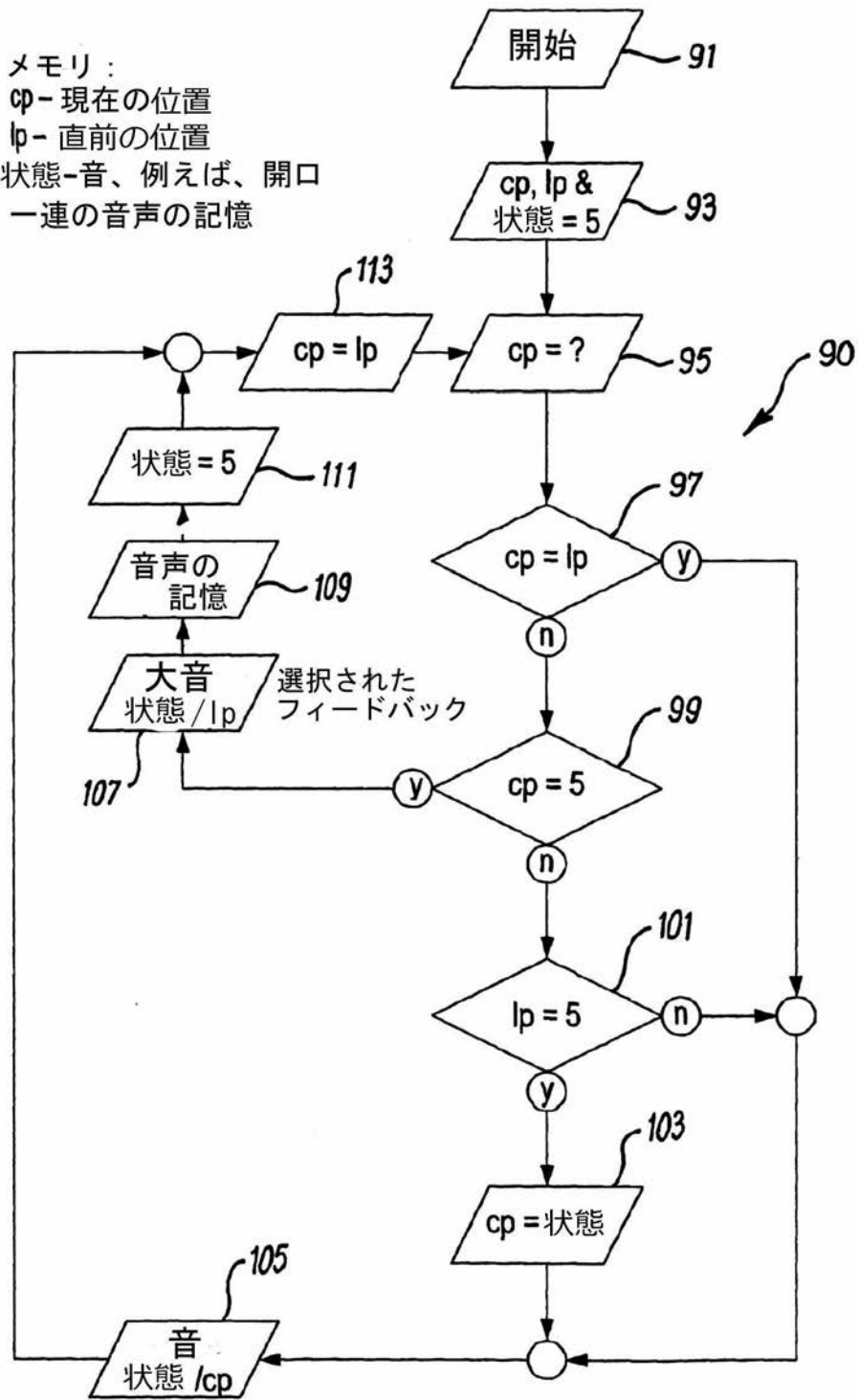
G 1 0 L 13/00 1 0 0 Z

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 24 年 7 月 27 日 (2012.7.27)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 4 4  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【 0 0 4 4 】

図 8 および 9 は、音声選択のプロセスに関するさらなる詳細を提供する。図 8 は、ユーザ・インターフェースの状態 8 1 および現在の位置 8 3、ならびにこれらに係る様々な音声を識別する参照用テーブルである。プロセスが開始されたとき、現在の位置、直前の位置、および状態が識別される。プロセスが開始すると、状態は、前に述べたように、ジョイスティックの中立位置である 5 に等しくなる。ジョイスティックを移動した場合、新しい現在の位置が作成される 9 5 ことになり、その現在の位置が、同一であるかどうか調べるために、直前の位置と比較される。現在の位置と直前の位置が同一ではない場合で、現在の位置が 5 に等しい場合は、その音声に対応する音が作られ 1 0 7、またその音声はメモリに記憶される。その後、状態は 5 となる（参照番号 1 1 1）。現在の位置が 5 に等しくない場合、システムは、直前の位置が 5 に等しいかどうかを尋ねて、yes である場合、現在の位置は状態に等しく 1 0 3、その状態または現在の位置に対応する音が作られる 1 0 5。直前の位置が 5 ではない場合、その状態に対応する音出力される 1 0 5。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】図 9  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【図 9】

メモリ：  
 cp - 現在の位置  
 lp - 直前の位置  
 状態 - 音、例えば、開口  
 一連の音声の記憶



経験者のユーザでは省略可  
 (フィードバックの選択)

**Fig. 9**